

事業実施報告書

やんばる水環境創出プロジェクト
～沖縄の休日を体感する持続可能な流域プロジェクト～

一般社団法人大宜味村観光協会
(沖縄県国頭郡大宜味村)

令和6年3月1日

やんばる水環境創出プロジェクト (沖縄県大宜味村)
沖縄の休日を体感する持続可能な流域マネジメント (一般社団法人大宜味村観光協会)

■良好な水循環・水環境の創出により目指す地域のメリット

水辺の自然体験を通じた水環境保全活動のモデルとして整備することを通じて、新しい時代の地域の暮らしの場として河川と地域の関係の再構築を行い地域の財産を永続させる

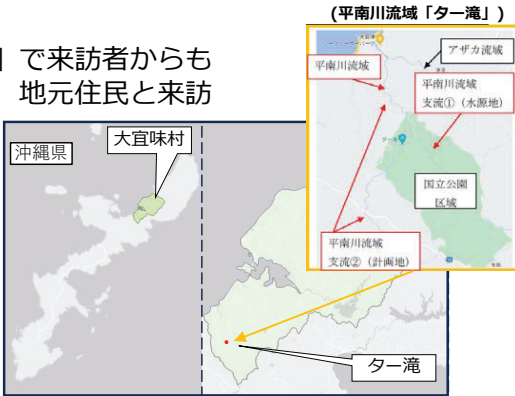
■事業概要

沖縄県やんばる地域の重要な水源地であり、自然観光資源「ター滝」で来訪者からも注目される平南川流域において、流域マネジメントの仕組みを活用し、地元住民と来訪者とが一体となった持続可能なやんばる水環境保全活動を推進する。

■地域の課題

新しい時代のやんばる河川利用のモデルとなる「流域計画の策定」
背景：時代と共に変わる河川と地域の関わり

	昔	現在
流域利用	農業、生活用水	観光、水源地
河川への興味	村民9：村外1	村民1：村外9



問題：観光は係る人々多し。属性多様。村民少数。問題の複雑化。河川の問題は河川だけで解決できない。
→地域が一体となって取り組む流域マネジメントが必要。

■問題解決に向け取り組む内容と目指すべき成果

	問題解決に向け取り組む内容	目指すべき成果 (期待する成果)
R5年度	①流域水循環計画策定に向けた環境調査と利用実態調査の実施 ②遊びと学びの基盤となる水辺のプレイフルインフラの方針整理。体験の場としての管理水準の検討 ③水辺の体験活動の開催と指導者育成、ター滝ゼロエミッション活動の推進	①現状把握による課題の明確化 ②統一した活動を可能にする管理方針の策定 ③地域人材の参加と育成。 活動の発信によるファン作り。 来訪者の保全活動取り組みへの参加。
次年度以降	流域マネジメント推進体制の構築	1

今年度の取組の歩み（スケジュール）

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
事業全体									
(1) 行政との調整、現状整理	←								→
1.現状把握調査						27日	23日		
(1) ゴミ把握調査、外来種調査									
(2) 先進地視察（奥入瀬溪流）		・23日 ～25日							
2.課題の設定									
(1) 専門家現地視察座談会	←			→					
①調整									
②水辺のプレイフルインフラ					・22日 ～24日				
③外来種問題						・13日 ～15日			
3.準備会開催	←								→
(1) ビジョン策定会議							25日		5日
4.普及啓発事業									
(1) 指導者育成				28日 29日					
(2) 水辺の体験 大宜味中学校					17日 19日				
(3) キープサックスプロジェクト	←								→
伴走支援	WEB	現地 視察	WEB	WEB	現地 視察	WEB	WEB	WEB	WEB

4

取組内容：現状把握と関係者調整

■取組内容



行政との合同現地視察



専門家同行による流域踏査



平南川流域
ター滝上流周辺
開発と影響の状況



先進地視察
奥入瀬溪流 倒木への対処

■取組の成果

- ・現状が明らかになり、他の場所とは異なる複雑な状況を各種団体と共有できたことで、取組みが急速に進んだ。
- ・先進地の知見を導入することで、安全管理についての理解が高まった。

5

取組内容：専門家視察・座談会

■取組内容



水辺のプレイフルインフラ
寺田 光成氏



外来生物問題
五箇 公一氏

■取組の成果

専門的な知見の導入は、より方向性が明らかになり、ビジョンや具体的な取組みにう役に立てられた。

①水辺のプレイフルインフラ

今を生き、未来を担う子どもたちの育成に必要な環境づくりを、地域一体となって取り組むべく、これまで縦割りであった各種の取り組みに横ぐしを通し、横断的な取り組みを進める必要がある。

②外来生物問題

やんばるの生物多様性は、人里の森「里山」が健全に保たれることにより守られてきた。近年森からかわりが薄れている。生まれ育った環境を大切にしつつも、積極的に関り、次世代に繋ぐ活動を推進する。

6

取組内容：準備会の開催

■取組内容

II. 将来像～ビジョン～と目標設定

1. 将来像～ビジョン～

「遊びのめがね」を育む、はじまりの場

初めてきて（ター滝に来て）感動した
(中学1年生の声)

遊びとは「やってみよう」から始まる自発的で楽しい行為であり、どのようにしたら楽しくできるか、試行錯誤しながら行うものである。遊びは、子どもの発達に重要であることはもちろん、人間は「ホモ・ルーデンス」とも呼ばれるように、遊びを通じて文化は成立し、発展してきたとされるように、地域文化を育む観点からも重要である。

「遊びのめがね」とは、こうした自らのワクワクした心に基づきながら試行錯誤しながら物事に取り組む見方・心持ちを意味する。そもそも「遊びのメダネ」とは、誰しもが身につけているものである。しかし近年では、公園の遊具やスクリーン（画面）でのゲームなど、限られた空間で提供された遊びをすることが増えたことから、地域を回遊して地域の様々な魅力に気づいたり、自ら遊びを作り出したりする機会が減少したことにより、自らの「遊びのめがね」を失いつつある。また、事故等への責任問題といった不安から、管理責任を担う大人も同様に失いつつある。

こうした背景を踏まえ、「遊びのメダネ」を育む、はじまりの場とは、貴重な水資源を通じて、以下の2つの新たな地域の文化を生成していくことを目指すものである。

① 改めて失われつつある「遊びのメダネ」の視点を喚起させながら、子どもたちが遊びを通じて地域を体感し、大人になったときの原風景ともなるような体験の場づくりを、ター滝・平瀬川からはじめること。

② 子どもをはじめ関係者が大宜味村の魅力を引き出しながら、子ども基本法にも示されたように、遊びの当事者である子どもをまんなかに置きながら、地域一帯となった取り組みをはじめること。

ビジョン

2. 目標設定と重点課題の取組み事項（案）

本ビジョンでは、ビジョンを達成するための目標を示すとともに、重点課題と取組み事項を設定する。ここでは、特に社会情勢の変化により早期に実施することが求められる重点課題に対し、地域社会が一体となり取組めることが期待できる事項を以下に示した。

目標	重点課題と取組み事項
子ども達・地域と平瀬川の関わりを再構築	1. 川遊びを通じた地域を知る機会の創造 1) 「水辺のプレイフルインフラ」として学び ○小中学校の川に親しむ機会への支援 2) 川の楽しみを安全に、安全指導者の育成 ○川遊びを教えるブレイクリーダーの育成 3) 「子どもの水辺」プロジェクトへの参加 ○地域連携と指導者の情報交換の場づくり
川遊びが出来る、安全で豊かな里山環境の確保	2. ター滝の環境・安全管理基準の設定と管理活動の実施 1) 順応的環境管理制度の導入 ○ゾーニングとグレーディングの実施 2) ター滝の安全な楽しみ方の周知 ○安全基準と、必要な知識と装備の周知 3) 生物多様性の確保 ○沖縄県対策外来種を中心とした外来種対策戦略の検討と実施 4) やんばるの水への感謝マナー向上の取組 ○来訪者地域住民・マナー向上の呼びかけ 5) モニタリングの実施 ○環境調査と各種活動の効果検証
ビジョンを実現する運営体制	3. 国立公園にふさわしい管理体制の実現 1) 公園管理団体を基準とした組織運営 2) 上下流の連携促進

取組み事項

■取組の成果

地域が一体となってすすむための重要な指針 横断的な各主体の連携

「ビジョン」と「取組み事項」を決定することが出来た。

7

取組内容：普及活動

■取組内容



『安全は前提』であり、土台
子どもは体験を通して成長する。安全は生活の前提として、大きな目的のひとつと考えたい。
大人がコントロールできる危険はしっかりとコントロールしながら体験（学び）の環境を保障することが重要。
そのために普段から、「コントロールできる危険」と「コントロールできない危険」を保育者が常に考えながら「最高の学び体験」の環境を準備し提供することが大事。
「生きる力」「基本的な生活習慣」「社会のルールやマナー」などを同時に学んでいく保育園生活で最大の体験と学びを

水辺の体験学習 大宜味中学校



キープクリーンサクスプロジェクト

■取組の成果

- ・体験学習を通じて教育現場の理解を得ることができた。「地域を知る」総合の時間での継続。
- ・これまでの自発的なクリーン活動に、具体的なビジョンを作ることができ、活動を推進しやすくなった。

8

取組における課題と対応

■取組を進める中で直面した課題

1.専門的な各課の取組みに横ぐしを通す

- ①国立公園 →環境省・観光庁 →大宜味村企画観光課
- ②教育関係 →文部科学省 →大宜味村教育委員会・大宜味中学校、小学校
- ③河川・水道 →国土交通省 →大宜味村建設環境課

2.多数の「協議会」との差別化の必要性

自治体では多数の「名目のみの協議会」が存在し、担当課は疲弊している。

■課題に対する対応・今後の対応策

1.各種団体を横断的につなぐ協議会の結成

「大宜味村子どもの水辺協議会」の結成により、目的をもった連携を促す。

2.具体的な活動を通じた密な連携

「地域の未来を担う子供たちの育成環境づくり」を目的に、具体的なスケジュールを立て、目に見える活動を行い、現場で関係者が課題を共有し活動を推進する。

9

今後の展望 ～水循環計画による、教育的価値の創造～

■大宜味村の取組

- ・今を生き、未来を担う子どもたちが、遊びを通じて地域を魅力を体感し、大人となった時の原風景となるような体験の場づくりを、地域一体で取り組む。
- ・大宜味村は、国立公園にも指定される豊かな自然と、そこで育まれた暮らしの姿「長寿の里」は世界から注目されている。
- ・少子化進行に伴う地域の衰退を抑制し、地域の環境・暮らしを守り育てるため、**将来を担う次世代の育成を第一に考える「こどもまんなか」の環境創出**に重点をおき、国立公園管理や地域コミュニティの発展など、様々な取組みを実施する。

